



# 『東北圏だより』



## 推進室の一員となって

東北圏広域地方計画推進室 副室長 御木 剛栄

（東北運輸局 企画観光部 計画調整官）

東北圏広域地方計画の活動指針として「豊かな自然のなかで交流・産業拠点として発展するふるさと“東北にっぼん”」が将来像として掲げられ、各分野で様々な広域連携プロジェクトが始動していますが、観光の視点から考えてみたい。

東北の観光のウィークポイントは「3つのW」である、と言われております。1つめのWはWinter、冬期間は来訪者が少ない。2つめのWはWest、中京圏以西からの来訪者が少ない。3つめのWはWorldで、外国人観光客が少ない。これが徐々に変わってきています。我々にとっては邪魔でありスキー場にだけ降ってほしい雪はりっぱな観光資源であり、雪の少ない地域からは温泉とのペアで注目されています。また、外国人観光客の誘客（インバウンド）については、東京～富士・箱根～京都・大阪のいわゆる「ゴールデン・ルート」が初来訪の定番コースですが、2回目以降は九州・北海道などの他地域を加える傾向にあり、優れた四季の彩りや温泉、食に代表される東北の魅力発信により東北を訪れる外国人は増加しています。

折から、本年12月には東北新幹線全通（新青森延伸）が控えており、時間短縮効果もさることながら、首都圏から乗換えなしで7県の県庁所在地に直行できる交通体系が整ったことは、大きな魅力です。個人旅行が主流となっている現在、二次交通の確保、案内等の多言語表示化推進、情報発信の拡充など抱える課題は多いですが、プロジェクトでも取り組んでいる滞在型（2泊3日以上）観光圏の形成のなかでも、連泊における温泉地相互の連携、グリーンツーリズムに代表されるニューツーリズム（従来の旅行形態ではなく、旅先での人や自然とのふれあいを重視する）の造成が進んでおります。

観光はすそ野の広い産業であり、これによる交流人口の拡大は地域活性化に繋がるものであり、伝統行事や自然景観や「おもてなしの心」など、東北ならではの地域資源を活かした観光の発展を推進してまいります。

## 協議会構成機関からの情報—宮城県—

宮城県では、本年3月に「宮城の将来ビジョン 第2期行動計画」を策定しました。この計画は、宮城の将来ビジョンの推進に当たって、取組の数値目標や個別取組の内容を示すものであり、各年度の行財政運営を計画的に推進していく上で基本的な指針となるものです。具体的な内容や目標を示すことで、県政に対する県民の理解や、企業・団体・NPO・国・市町村など幅広い主体の参画により、協働・協力しながら将来ビジョン実現に向けた取組を展開していこうとするものです。



第2期の4年間は、「富県共創！活力とやすらぎの邦（くに）づくり」に向けた33の取組をさらに充実していく時期であり、策定に当たっては、第1期行動計画の進捗を検証し、社会経済情勢の変化を踏まえた課題認識に基づいて、雇用創出や次世代の育成、安心できる生活環境の確保、持続的な社会の基盤づくりを主要政策として設定しました。

雇用創出では、産業活動をより活発にして働く場を確保する必要があります。仙台北部道路の利府しらかし台IC～富谷JCT間が今年3月に開通したことで、仙台都市圏に政令市を取り囲む自動車専用の環状道路が完成しました。生産拠点と物流拠

点のアクセスが格段に向上するなど、経済活動を下支えする基盤がいっそう整い、自動車関連産業をはじめとする誘致企業の稼働開始と相まって、宮城のみならず東北全域の活性化とさらなる産業集積の促進が期待されます。また、こうしたインフラ整備と合わせて、企業のマッチング支援やレベルアップ支援、裾野を拡大する参入支援などの事業を行ってきましたが、本年度からは産業人材の育成に東北6県が連携を強化していくなど、県境を超えた様々な連携が進められており、東北の発展に向けて今後とも広域的な視点に立って取り組んでまいります。

## 取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

### ○第1回『低炭素社会構築推進』PT会議

5月10日、東北森林管理局（秋田市）において、第1回『低炭素社会構築推進』PT会議が開催され、PTが設立されました。

低炭素社会構築のための二酸化炭素吸収源等美しい森林づくりについては、広域連携プロジェクトのうち、「1. 東北圏のポテンシャルを活かした低炭素・循環型社会づくりプロジェクト」の具体的取組のひとつとして位置付けられています。会議では主査機関である東北森林管理局をはじめ、国、県の担当者が参加し、PTの今後の進め方、検討内容について意見交換が行われたほか、各構成機関の取組や課題等に関する情報交換が行われました。

今後は、各機関が情報共有を図りつつ、PTとしての情報発信や新たな取組を検討していく予定となっております。

### ○高速バス共通フリーパスの実証実験結果について

東北6県における高速バス共通フリーパス「東北おトクパス」の実証実験が平成22年2月28日に終了しました。東北運輸局は、バス事業者からの報告データと期間中に実施したアンケート結果を集計し、共通フリーパスの需要把握や利便性向上のための課題の把握を行いましたので、その概要をお知らせします。

実証実験期間中の販売累計は494枚。利用実績累計は1,860回で、1枚当たりの平均利用回数は3.77回となりました。主な路線は利用頻度の多い順に、仙台～盛岡、仙台～弘前、仙台～青森、仙台～秋田となりました。

アンケート調査結果でパスの利用目的が最も多かったのは「観光」で46%、次いで「出張」の32%でした。また、満足度については、72%が「大満足」・「満足」との回答で、特に、東北以外の在住者からは、100%「大満足」・「満足」の回答でした。

新規需要については、「東北おトクパスがなかったら今回の旅行はどの手段で行ったか」という設問において、「なければ旅行しなかった」等の回答が55.1%あり、過半数を上回る結果となりました。

アンケート調査で判明した主な課題は、①路線バスや鉄道、レンタカー等、他の交通モードとの連携、②利用日数や利用可能地域の異なる複数の種類のパスの発売等でした。

今後は、平成21年度に実施した実証実験調査の結果により判明した課題・改善点等について、『高速バスネットワークを活用した移動手段の充実』PT会議で具体的な対応策等の検討を行う予定です。

## 編集後記

今月号では、新たな推進室メンバーの意気込みや、新たなPT立ち上げの報告などがありました。

東北圏広域地方計画に係わる動きも2年目を迎えて本格化してまいりましたので、現在フォローアップ作業を鋭意事務局でとりまとめているところです。各構成機関のみなさまには、お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。結果については、今月開催の協議会検討会議で公表される予定です。

また、6月2日に福島市内で「水環境を考えるシンポジウム」を開催したところ、約330名の参加がありました。詳細については、次月号（第8号）で報告させていただきます。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp



▲取組推進PT会議の様子

